

平成26年度 「大学生の力を活用した集落復興支援事業」 二本松市水舟集落 実証実験報告



宇都宮大学里計画研究会

1 水舟集落について

所在地：福島県二本松市 水舟集落
4つの小字からなる集落

世帯数：33 (2014年8月現在)

人口：103 (2014年8月現在)

主な産業：農業 (約半数の世帯)



2013年8月23～24日

住民へのヒアリング調査

→ 現状把握・活性化策の糸口

フィールド調査（1回目）

→地域資源の発見



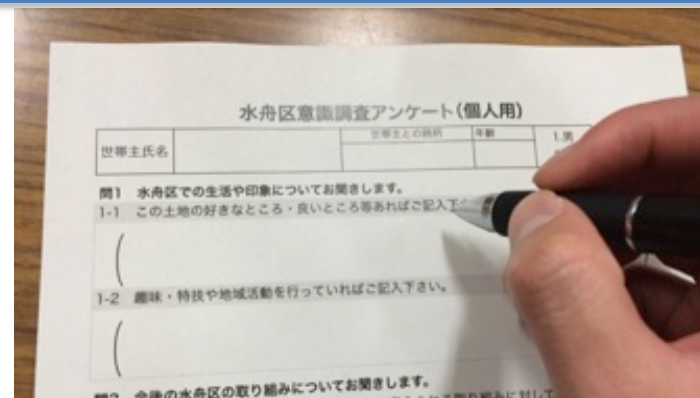
2013年10月

住民へのアンケート

回答数：103/104人33/34世帯

→ 活性化手法への意識

世帯構成・家屋間取り



2013年11月2～3日

ワークショップ

アンケート結果報告後 活性化に向けたWS

フィールド調査（2回目）

→地域資源の発見



3 水舟集落の現状

昨年度（2013）のまとめ

- ・ 人口減少・産業衰退

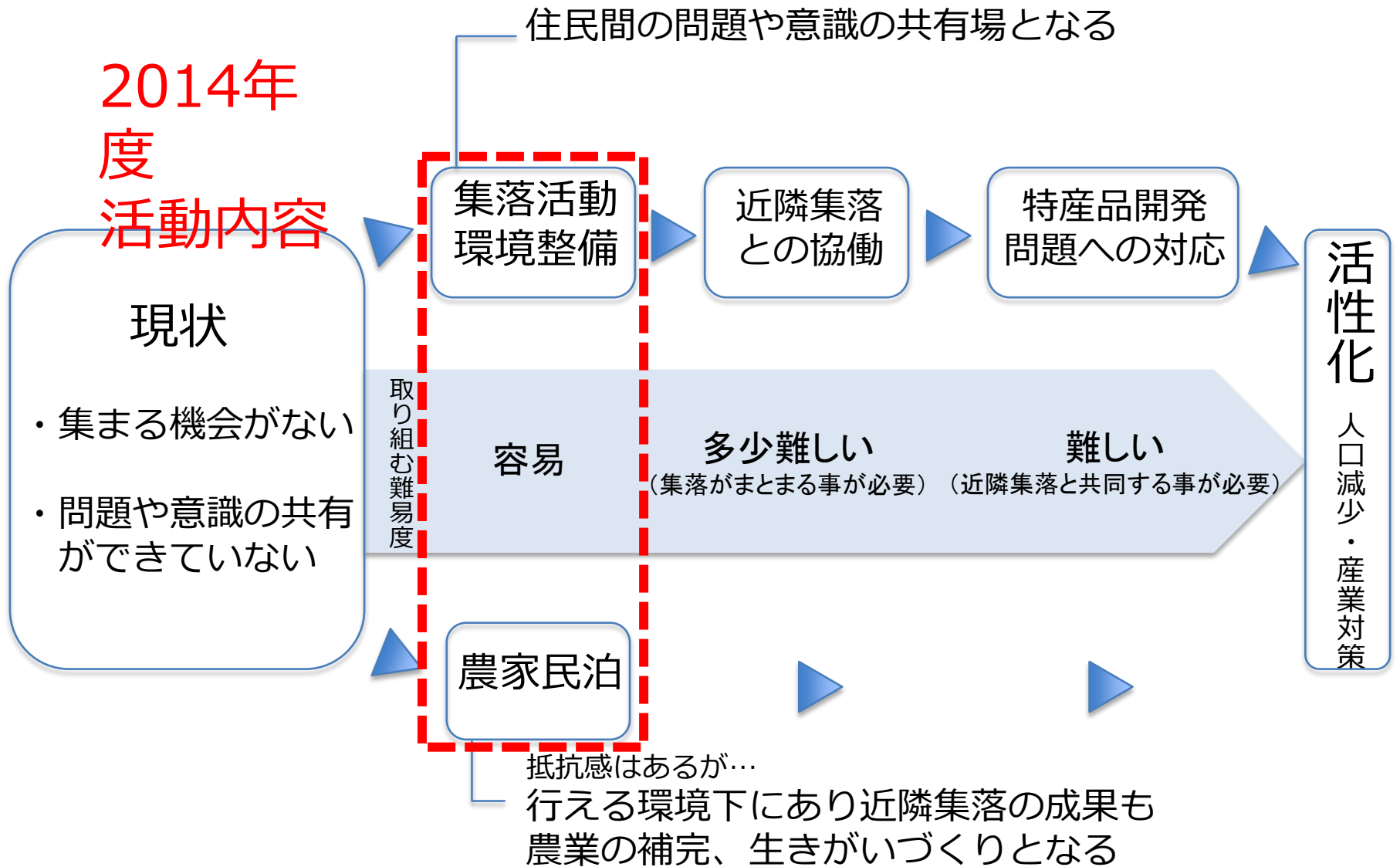
準限界集落、平成22年度国勢調査から16.1%の減少（東日本大震災の影響）
放射能汚染により消費することへの恐れ、耕作放棄地の割合が高い

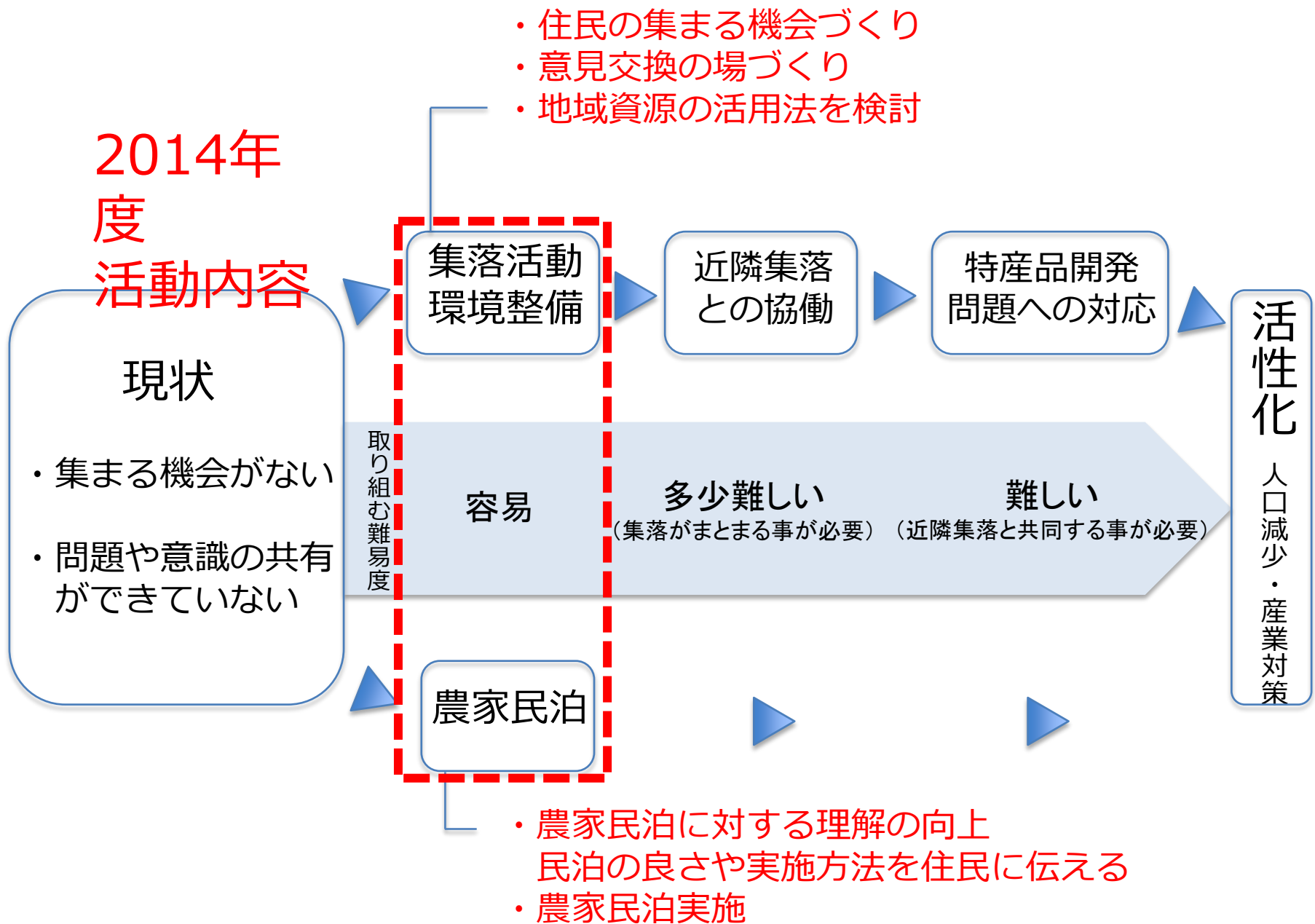
- ・ 集まる機会が無い・問題意識の共有ができていない

集落全体で集まる活動はおこなれていない
ワークショップの際、初対面の住民も存在した

- ・ 民宿業への取り組みが可能だが、住民の意識に抵抗感はある

民宿業は近隣集落において一定の成果がある
集落の多くの世帯は導入出来る居住環境下にある
農原風景、文化遺産、多数の巨石などの来訪者を呼び込める地域資源がある





2014年 ～8月

農家民泊ガイドラインの作成

→農家民泊に対する理解の向上



2014年8月23～24日

農家民泊・感想報告会

→農家民泊に対する理解の向上、意見交換の場づくり

グランドゴルフ大会・バーベキュー

→住民の集まる機会づくり

フィールド調査

→地域資源の活用法を検討



2014年12月6～7日

農家民泊

農家生活体験(野菜収穫・加工体験・薪割り)

→農家民泊に対する理解の向上

ワークショップ

→意見交換の場づくり、地域資源の活用法を検討

芋煮会（交流会）・感想報告会

→住民の集まる機会づくり



農家民泊ガイドラインの作成

県外の農家民泊実施先進事例を調査し、
農家民泊ガイドラインを作成

ガイドライン記載内容

- ・ 農家民泊のメリット
- ・ 受入世帯がすること
- ・ 住民が持つ不安の解消

農家民泊に対する理解の
向上により、農家民泊を
行いやすい環境を整えた



はじめに

人間関係や自然との関わりが希薄になった現代において、都市住民などが農山漁村を訪れ、

「農山漁村の素朴な暮らし、やすらぎやゆとりを体感する」

「豊かな自然や地域の文化、美しい景観に触れ、おいしい郷土料理を楽しむ」

といった観光への関心が高まっており、近年非常に注目されています。またそのような余暇活動・観光は、農山漁村にとっても、新たな地域活性化の手段として期待されています。

内閣府の調査によると…

ほぼ毎年行っている「国民生活に関する世論調査」によると、今後力点を置きたいものについては「レジャーや余暇」が最も高く、次いで「食生活」となっていました（平成24年）。また、平成17年度に行った『都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査（内閣府）』によると、国民の80%が「都市地域と農山漁村地域の交流が必要」と考えており、半数以上が、「都市と農山漁村の共生・対流」に関心があると回答しています。更に、農山漁村地域に滞在する場合に宿泊したい施設として、「農家（漁家）民宿」をあげる人は23%にのぼります。農家民宿の数が、格段に少ないことを考えると、農家民宿の需要は今後増加すると考えられます。

※農家民宿…農家民泊とほぼ同様であり、規制項目や対価の受領に多少の差があります。

農家民泊とは？

母屋の使わなくなった空き部屋や、別棟の空き家を活用して都市住民などを宿泊させ対価（謝礼金など）を受領することです。

本来ならば・・・このような行為は宿泊業に該当し様々な法律で規制されます。



「農山漁村への関心の高まり」や「地域の活性化」を背景として、農林漁家が自宅などを活用する小規模宿泊体験については、旅館業法や食品衛生法などの法律を一部規制緩和し、自宅にあまり手を加えず、宿泊客を泊める事ができるようになっています。

2014年 ～8月

農家民泊ガイドラインの作成
→農家民泊に対する理解の向上



2014年8月23～24日

農家民泊・感想報告会

→農家民泊に対する理解の向上、意見交換の場づくり

グランドゴルフ大会・バーベキュー

→住民の集まる機会づくり

フィールド調査

→地域資源の活用法を検討



2014年12月6～7日

農家民泊

農家生活体験(野菜収穫・加工体験・薪割り)

→農家民泊に対する理解の向上

ワークショップ

→意見交換の場づくり、地域資源の活用法を検討

芋煮会（交流会）・感想報告会

→住民の集まる機会づくり



農家民泊・感想報告会



2014.8.23-24 農家民泊

農家民泊

3軒の農家で農家民泊を実施

学生：6人

食事は各農家ごとに自分の畑で育てた
農作物を中心とした料理を提供

収穫作業を手伝うなどして農家の
生活・仕事に触れた



農家民泊を実施することでより理解を得られた



農家民泊感想報告会

- ・民泊への意見・感想、今後の活性化について話し合ってもらった (住民1/3が参加)

農家民泊に対する住民の理解の向上
地域の問題を話し合う意見交換の場



農家民泊を終えての感想

実施世帯の声

実施前：知らない人を家入れることに抵抗があった
料理が口に合うかという不安があった

実施後：いつも通りの過ごし方で大丈夫だと思った
料理を喜んでもらえてうれしかった
外の人と話ができてよかった
孫のように接する事ができて楽しかった
交流時間が足りない

未実施世帯の声

実施後：泊まらせられる条件が
整えられればやってみたい

参加学生の声

自家栽培で作った料理がおいしい
「集落の人の日常」が新鮮に感じた
家族ができたようで楽しかった
交流時間がもっとほしい

- ・実際に農家民泊を行うことによって農家民泊に対する意識に変化がみられた
- ・交流時間の増加が実施世帯、学生から求められた

グランドゴルフ大会・バーベキュー



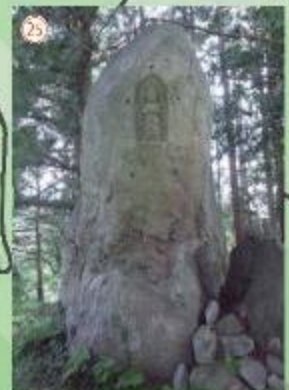
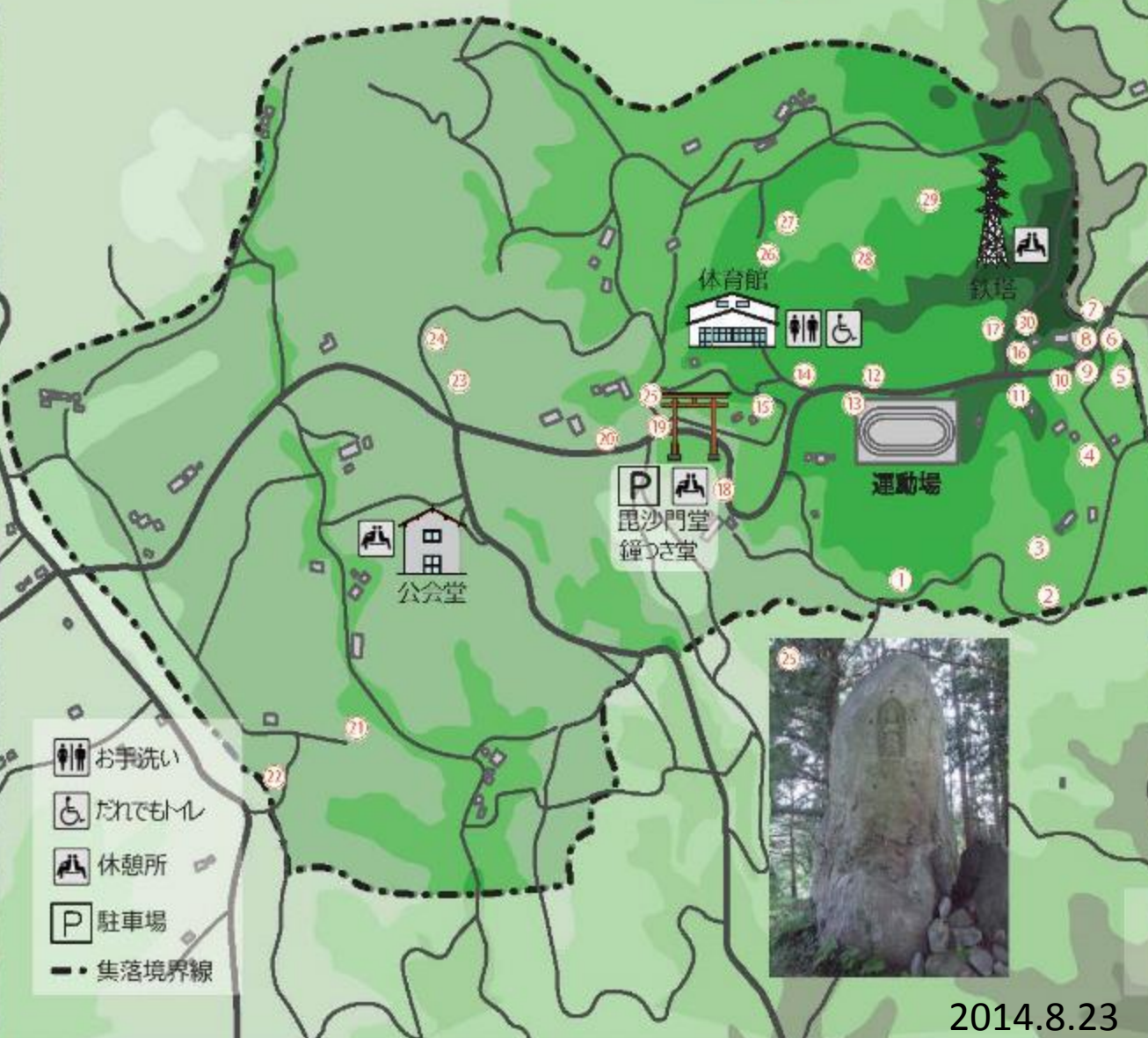
2014.8.24 バーベキュー

- ・地域住民の1/3、学生6人が参加

地域住民の交流の場が
増えるきっかけづくり



水舟集落 巨石散策MAP 調査



フィールド調査

集落内の地域資源である巨石を探索
→集落全体に30を超える巨石

活用方法

巨石に、外から来た人（例：美大生など）に彫刻をしてもらうことでアートとしての活用するなど



事例
栃木県小砂地区
大学生による森の活用

<http://nakagawa5.blog.fc2.com/blog-entry-136.html>

集落外の人を呼び込める地域資源として活用し，発展させていく

2014年 ～8月

農家民泊ガイドラインの作成
→農家民泊に対する理解の向上



2014年8月23～24日

農家民泊・感想報告会
→農家民泊に対する理解の向上、意見交換の場づくり
グランドゴルフ大会・バーベキュー
→住民の集まる機会づくり
フィールド調査
→地域資源の活用法を検討



2014年12月6～7日

農家民泊
農家生活体験(野菜収穫・加工体験・薪割り)
→農家民泊に対する理解の向上
ワークショップ
→意見交換の場づくり、地域資源の活用法を検討
芋煮会（交流会）・感想報告会
→住民の集まる機会づくり



農家民泊・農家生活体験



2014.12.6~7 第2回農家民泊

〈 第1回農家民泊の感想 〉

交流時間を増やしたい（住民・学生）
女性や外国の方にも来てほしい（住民）



〈 第2回農家民泊の取り組み 〉

交流時間を増やす
女性や留学生も参加する
実施世帯数を3世帯→5世帯へ増やす

農家生活体験

2回目は農家民泊の他に農家生活体験
（野菜収穫・加工・薪割り）を実施し、
集落外から来た人との交流の場
を設けた



野菜収穫



薪割り



野菜加工

農家の生活や仕事に触れることができた

農家民泊

5軒の農家で農家民泊を実施
学生：10人(女性・留学生を含む)



農家民泊を終えての感想

実施世帯の声

実施前：外国人が一人で来たら心配だった

料理が口に合うかという不安があった(初実施世帯)

前回があったから、あまり抵抗はなかった(2回目実施世帯)

実施後：やってみたら普通に泊めるだけで家族の帰郷と変わらなかった(初実施世帯)

集落外の人や外国人が野菜をおいしいと言ってくれて嬉しかった

集落外の人と交流ができてよかった(全世帯)

女の子が来てくれて、おばあちゃんの話し相手できてよかった

- ・ 2回目実施世帯では民泊に対する抵抗は少なくなっている
- ・ 女性や外国人への受け入れについても前向きな感想が聞けた

ワークショップ



2014.12.7 ワークショップ 水舟集落体育館にて

ワークショップ

- ・ 集落住民 22名(21.4%)が参加
- ・ 11名1チームとし
2チームに分かれ行った
- ・ 集落の年間地域資源掘り起こし
(**地域資源カレンダーづくり**) と集落
の理想の姿について話し合った

ワークショッププログラム

1. 集落への思い
2. 地域資源カレンダーづくり
3. 集落の目標を考える
4. まとめ

ワークショップのねらい

住民間の問題や意識の共有
地域資源の活用方法の検討



1. 集落への思い

目標（こんな風になってほしい）と現状（困っていることなど）について話しあってもらった

現状

- ・ 子供・若者がいない（後継ぎがいない等） (6名)
 - ・ 交通が不便（道が狭い、病院が遠い、バスが来ない等） (2名)
 - ・ 健康などに不安がある (2名)
- など

目標

- ・ みんなが集まる機会がほしい (4名)
 - ・ みんなが前向きな気持ちになってほしい (2名)
 - ・ 花を植えたい（毘沙門堂） (2名)
 - ・ 活気のある集落にしたい (2名)
 - ・ 産業を活性化したい (2名)
 - ・ 集落外から人が来てほしい（若者・外国人） (2名)
- など

現状を把握し、活性化に向けて糸口を探す

ワークショップ

2. 地域資源カレンダー 地域の年間資源の掘り起し

テーマ	冬			春			夏			秋		通年
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
1 観る
2 体験する
3 学ぶ
4 食べる
5 遊ぶ
6 買う
7 その他

※ 各セルには、地域資源に関する具体的な活動内容や場所が記載された色紙が貼られています。

3. 集落の目標を考える

地域の資源を活用して、理想の集落に近づける方法や、問題を解決する方法を考える

チーム①

現状

住民同士の集まりに参加する人が少ない

目標

住民みんなが参加できるような場がほしい

活用する地域資源

毘沙門堂

各季節の作物

など

毘沙門堂

	冬			春			夏			秋			通年
チーム①	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
観る	1				1					1	1		5
体験する	1								2		2		
学ぶ			1									2	3
食べる	4			1	1	2	1	1	5	3	1		
遊ぶ											1		3
買う													
その他													1

数字：地域資源の数

各季節の作物

提案

- ① 毘沙門堂を整備して、住民の集まる場や集落のシンボルにする
- ② 収穫祭などの行事を行い、住民の集まる機会を作る

チーム②

現状 若い人が家を離れている
集まれる機会があまりない

目標 住民同士や集落外の人が集まれる
ような集落にしたい

しめ縄づくり
旗祭り見学・体験 田植え

	冬			春			夏			秋			通年
チーム②	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
観る	3			1	1						3	1	2
体験する	2		2		1	2	1	3		5	2	7	2
学ぶ													
食べる	2	1	1					1	1		1		1
遊ぶ					2								1
買う													
その他		1											

数字：地域資源の数

活用する地域資源

各季節の作物
木幡幡祭り
しめ縄づくり など

ツルムラサキ
キュウリ
ナス
ジャガイモ
などの収穫

稲刈り
ハクサイ
ホウレンソウ
ダイコン
などの収穫

提案

- ① 4~5月は外からきた人が田植えをして、管理は地元の人で行う
- ② 7~8月は夏野菜の収穫体験(ツルムラサキ・キュウリなど)を行う
- ③ 11月は稲刈りや秋野菜の収穫体験(白菜・ほうれん草など)を行う
- ④ 12月は幡祭りにきた観光客に集落内に宿泊してもらい、正月のしめ縄づくりを習い体験する

ワークショップ

4. まとめ

チーム①

住民同士の集まる場や集落のシンボルづくりなどに焦点を当てた提案となった

チーム②

集落外の人を呼び込むための地域資源の活用方法に焦点を当てた提案となった



今回のワークショップを通して、住民同士の**集落に対する想いや問題意識を共有**することができた

また、**地域資源を活用**して今後の活性化へ向けた具体的な提案がされ、住民の活性化への意識の変化がみられる

芋煮会（交流会）



2014.12.7 芋煮会

農家生活体験

前日の農家生活体験（野菜収穫・加工・薪割り）の成果を基に芋煮会をおこなった



芋煮会（交流会）



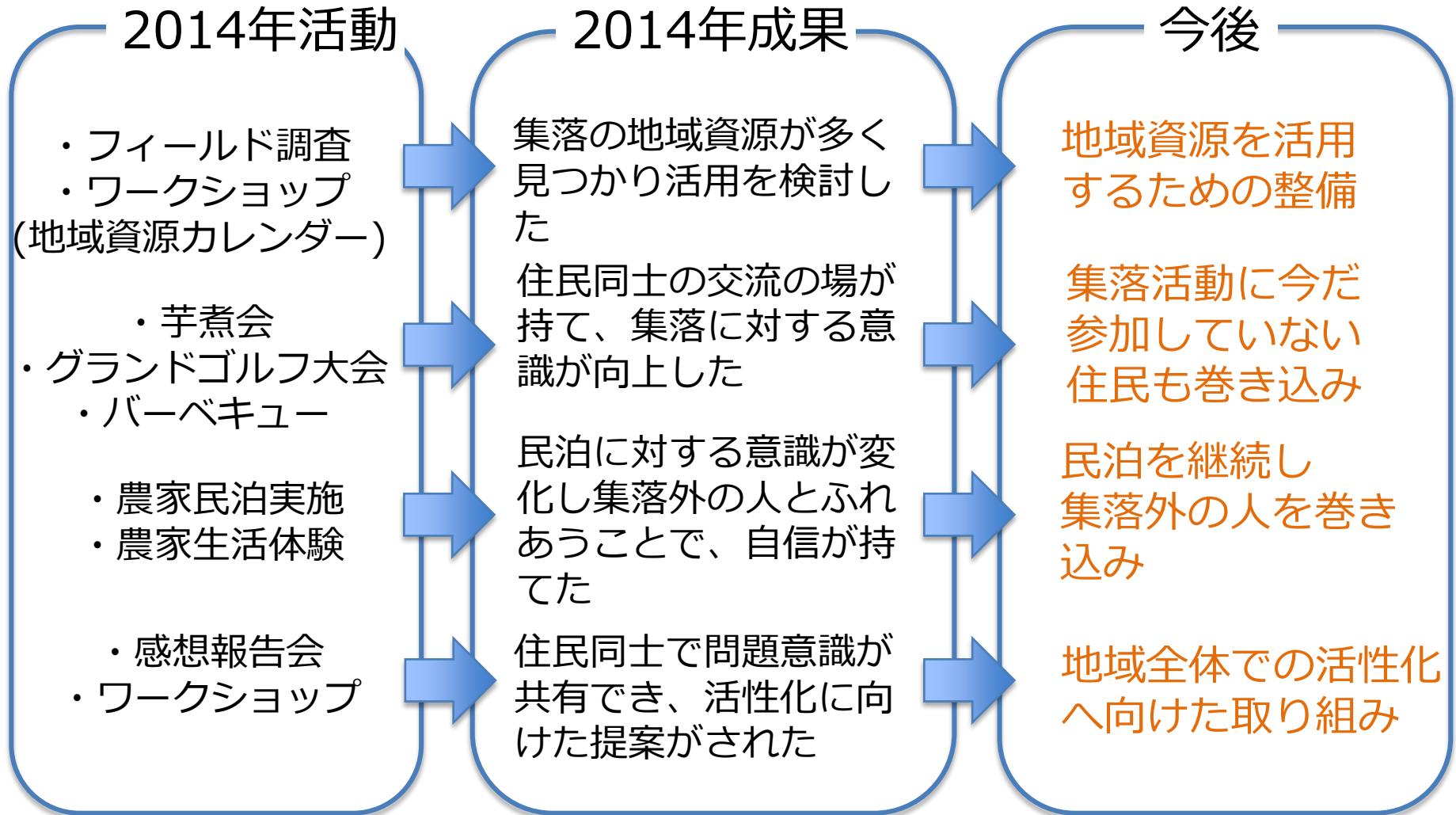
住民たちが集まることで、地域としての連帯感を深めた
学生らと農家民泊や地元のことなどを話し、地域への自信につながった
→今後も活性化に向けての活動を行いたいという声が上がった

集落役員へのヒアリング

- 1.活動に当たって**住民達が集まり、準備をする**ようになった
- 2.交流プログラムに対し、**女性陣から女性目線でのプログラムの変更意見が出る**ようになった
- 3.今までは、集落長は輪番でやらざるを得なかったが、今年はしっかりと人を選任しようという**提案が住民から出るようになった**



まとめ



今後も長期的に活動を続ける必要性がある



2年間ありがとうございました